



夢だった。老女は夢さめて早朝起きて見ると、河原の池に光り輝く異様なものを発見した。老女はおどろき本山に登ってよくみると、岩屋の前に垂れた木の枝に神の御旗が掛っているではないか。老女は家に帰って家人にこのことを知らせ、また岩上に引き返してくわしくそのあたりを調べたところ、岩石の上に神が天降ったと思われる足跡のあるのを見つけ、更に驚いた。

「是は正しく神の御霊のお告げに相違ない。」と思い、村びとに依頼して直ちに社をつくって本山神社としてお祀りすることにした。

この神社は経津主命をまつり、赤城神社の奥の院として、代々田代家の氏神となし武運長久の祈願所とした。この神域は天然自然の霊地であり、今も部落民の崇敬を集めている。現在の神殿は、明治九年九月十五日に再建されたもので、部落の人びとは神信心のあついおばあさんが夢知らせによって、神の靈感をうけたのだろうと言っている。